

## 平成22年度自転車安全点検全国普及活動事業の視察報告（土浦支部）

### 【拠点型安全点検】

視察場所：茨城県土浦市立土浦第三中学校

要 請 先：教育委員会

視察月日：平成22年10月5日（火）

点検台数：400台、整備不良車81台

実施支部：土浦支部 8人

中村輪業、カドヤ自転車店、渡辺輪業、  
大曾根サイクル、(株)コルベン(支部長宮内氏)、  
川崎乗物デパート(日商連理事長川崎氏)、  
榎沢商会、萩原サイクル商会



土浦支部 点検担当者

茨城県自転車二輪自動車商協同組合の平成21年度の拠点型安全点検会場数の150は、東京都自転車商協同組合の312会場に次いで全国で2番目に多い。東京は会場数の85%を小学校で行っているが、茨城県は63%が中学校で行われている。このことで、通学用自転車に重点を置いて取り組んでいることが分かる。

今回の拠点型安全点検会場である土浦市立土浦第三中学校はJR荒川沖駅から徒歩約20分のところにあり、かつて人口増加地域にあったので、29年前に第六中学校が分離設立された。当日の通学用自転車の400台は校内の駐輪場に、鮮やかに、きちんと置かれていた。

午後1時の開始時間前に点検員の全員が集合し、のぼり旗や看板を設置し、支部長が段取りを話し、手馴れた様子で点検が始まった。当日は残暑ともいえる気候だった。

まずは、整備の必要が少ないと思われる1、2年生の305台から取り掛かった。1年生の自転車は大部分が購入して半年なので、まだ輝きが失われていないが、衝突を思わせる前輪タイヤの激しい振れがあるものやホークが後輪方向に曲がったものがあった。

2年生のものになると、錆びたチェーンやガタガタのチェーンケースなど快適に通学できないのではないと思われる自転車があった。校舎の反対側に移動して、95台の3年生の自転車を点検整備した。ホークが曲がったものは無く、思っていたより整備不良車が少なかった。

この会場では点検だけでなく、できる限りの整備も行った。ネジを締めたり、ブレーキやチェーンを調整したり、生徒の安全を願って黄色い安全点検カードのチェック項目の要整備欄にチェックの印を付けた後、整備済の欄にもチェックの印を付けていた。ホークの曲がりなど、乗用に危険を伴う自転車は学校の責任者に見てもらうために、整然と駐輪してある列から離して置いた。

点検終了後、教頭先生と教務主任の先生に点検後の状態を見てもらった。点検後の対処は学校が行っている。学校から感謝され、点検員は帰路に着いた。

以上



この事業は競輪の補助金を受けて実施しました。

<http://ringring-keirin.jp>

